

マスコミ各位

平成29年5月30日（火）
保健医療部 地域保健課 結核感染症班
担当：山内、仁平（866-2215）

「平成29年度H I V検査普及週間」を実施します

平成29年6月1日（木）から7日（水）は、「H I V検査普及週間」です。この週間は、H I V検査の利用機会を拡大するとともに、広く県民に対して、検査・相談体制に係る情報提供を含む普及啓発を行い、H I V検査の浸透・普及を図る機会とするもので、全国で一斉に実施されます。

県では、各保健所でH I V即日検査を拡充して実施します（別紙参照）。検査は**無料・匿名**で実施し予約制です。受付時間など詳しくは、各保健所へお問い合わせください。また、検査の流れについて、平成29年5月27、28日に放送されました県の広報番組「うまんちゅひろば」にて紹介しておりますので、地域保健課あるいは広報課のホームページからご参照ください。

全国的に患者報告数が増加している梅毒についても、保健所で検査を実施しておりますので、同時に受検されることをお勧めします。

- 1 エイズ（A I D S）について（資料 p. 1）
- 2 県内のH I V感染者・エイズ患者発生動向（1987-2017年5月26日時点）
 - （1）H I V感染者・エイズ患者の届出状況（資料 p. 2）
 - ・2016年は22件（HIV 17件、エイズ 5件）であった。
 - ・累計は353件、2007年以後14~33件で推移。
 - ・2017年は、5月26日時点で14件（H I V感染者11件、エイズ患者3件）が報告。
 - ・2011年から2015年は、診断時に既にエイズを発症している患者の割合は30~50%（平均38%）と、全国（約30%）と比べて高い値を示したが、2016年は約23%となった。
 - （2）男女別（資料 p. 2）
 - ・男性94%（332/353）、女性6%（21/353）。
 - （3）年代別（資料 p. 3）
 - ・最も多いのは30代36%（126/353）、次いで20代28%（99/353）、40代22%（76/353）、50代以上12%（44/353）、10代2%（8/353）の順となっている。
 - （4）感染経路別（資料 p. 3）
 - ・男性同性間67%（238/353）、異性間22%（77/353）、不明11%（38/353）
 - （5）人口10万人あたりの都道府県別H I V抗体検査数（資料 p. 4）
- 4 感染予防（感染拡大防止）
 - （1）H I Vの感染は、性行為以外の日常的な接触では感染せず、性行為の際も、コンドームを正しく使用することで予防が可能です。
 - （2）感染の不安がある方は、保健所の無料匿名検査を受けてください。
- 5 平成29年度H I V検査普及週間における各保健所のH I V抗体検査実施日時（資料 p. 5）
- 6 梅毒について及び梅毒の年別報告数（資料 p. 6）
 - ・2016年は、1999年以降では最多の41件が報告（男性36件、女性5件）されています。
 - ・2017年は5月26日時点で15件（男性10件、女性5件）が報告され、特に女性は、既に2016年と同数が報告されています。
 - ・梅毒は再感染しますので、自身とパートナーと一緒に検査と治療を受けることが大切です。

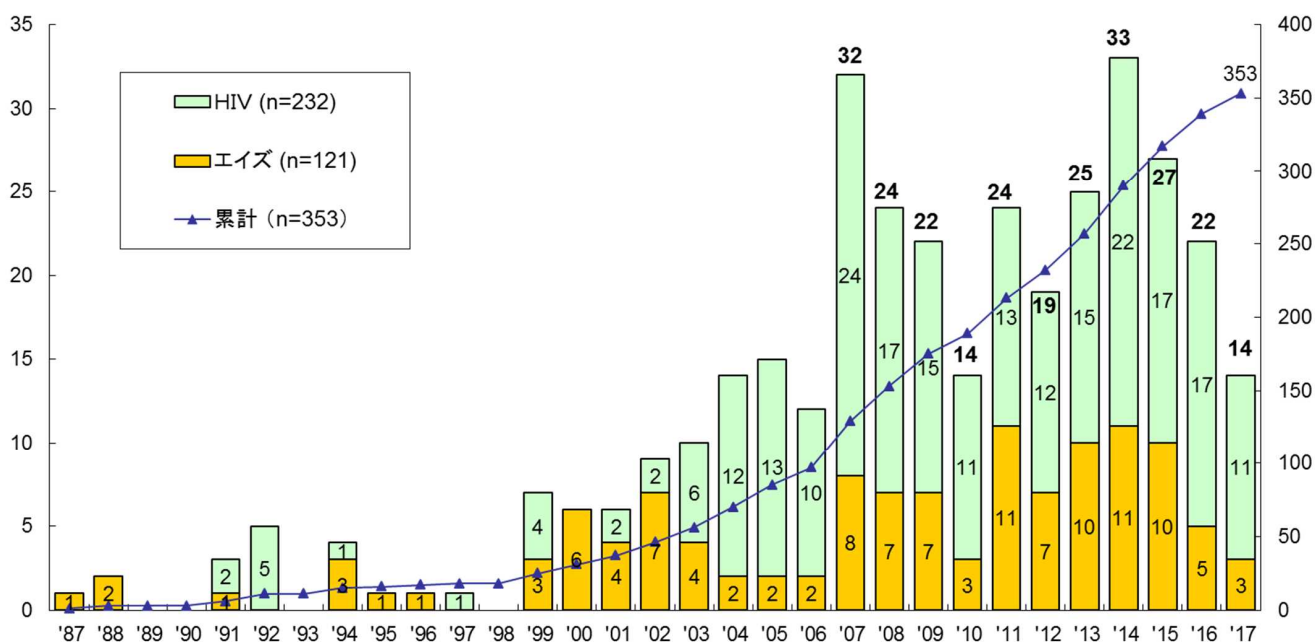
参考資料

エイズ(AIDS)について

- エイズは、「後天性免疫不全症候群」ともいい、HIV(ヒト免疫不全ウイルス)に感染することによっておこる病気です。
- HIVに感染してから2～3週間すると、軽い風邪のような症状がでることがあります。この症状は数日～10週間くらい続き、ほとんどの場合は自然に消えてしまいます。
- その後、数年～10年間くらいは何も症状はありませんが、体の中でHIVがひそかに広がっています。
- 何も治療をしないでいるとさらに進行し、微熱や下痢が続いたり、リンパ節が腫れたり、肺炎などを起こします。
- このような状態になると「エイズを発症した」「エイズになった」といいます。
- 感染経路は、①性行為、②血液を介しての感染(注射器具の共用など)、③母子感染の3つです。
- 検査と治療
 - ・検査：保健所等で無料、匿名で受検できます。
 - ・治療：陽性者には、県内の専門医療機関を紹介します。
現在では、早期発見・治療により発症を防ぐことが可能です。
感染者でも発症を防ぐことにより、通常の生活ができます。
- 予防
HIV感染の80%以上は性行為によるもので、コンドームを正しく使用することで予防できます。

1. HIV感染者／AIDS患者の届出状況

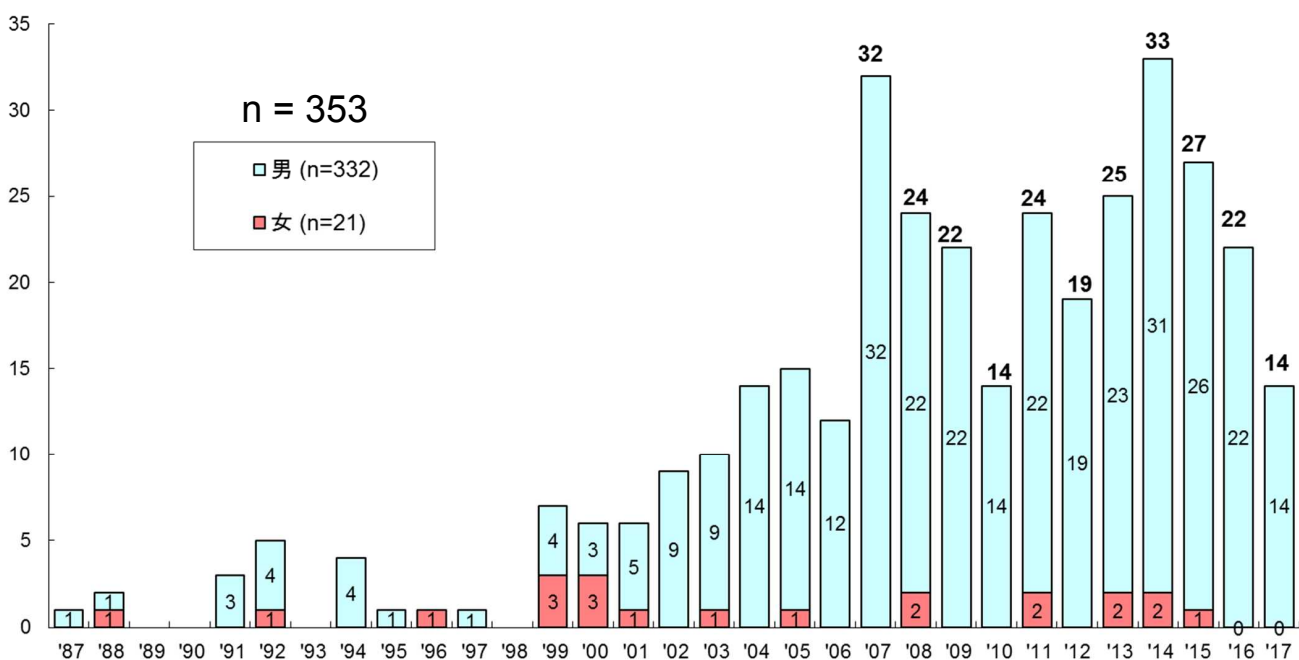
- 累計は353件（1987-2017年5月26日時点）
- 沖縄県は平成18年度より重点対策指定自治体（計20自治体）に選定されている



※診断日に基づく集計（2017年は5月26日時点）

2. 男女別

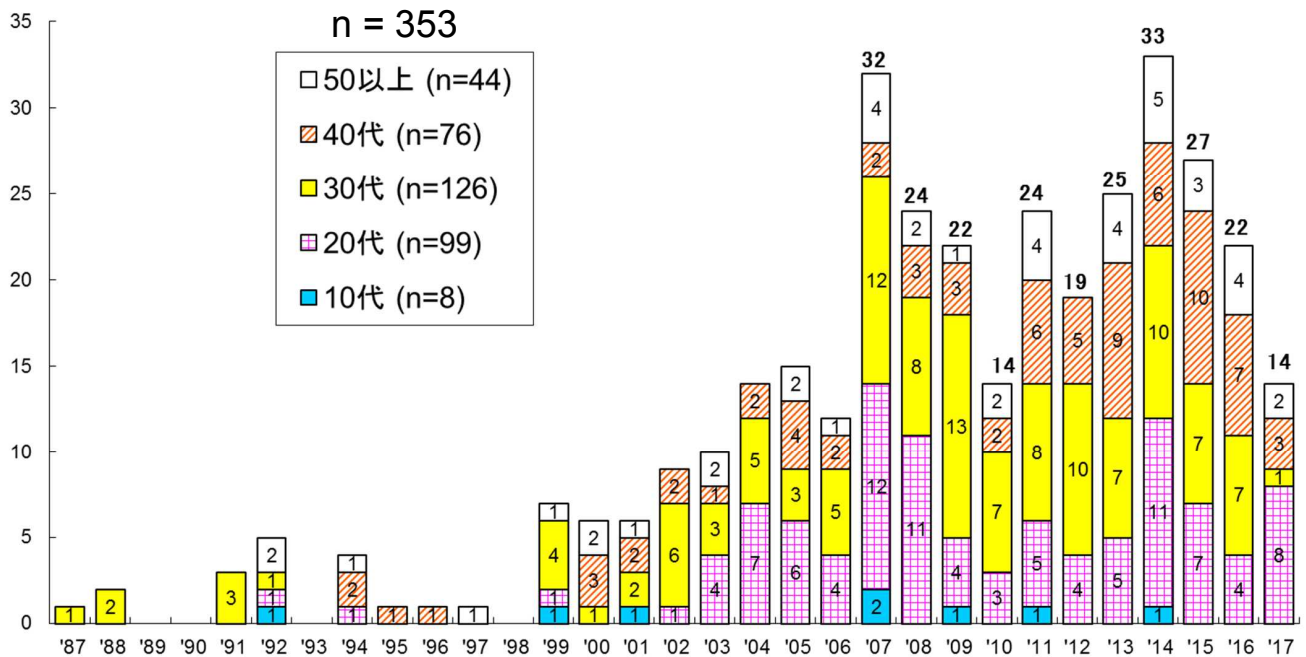
- 2017年（5月26日時点）は、男性14件、女性0件
- 累計では男性が94%を占めている（男性332件、女性21件）



※診断日に基づく集計（2017年は5月26日時点）

3. 年代別

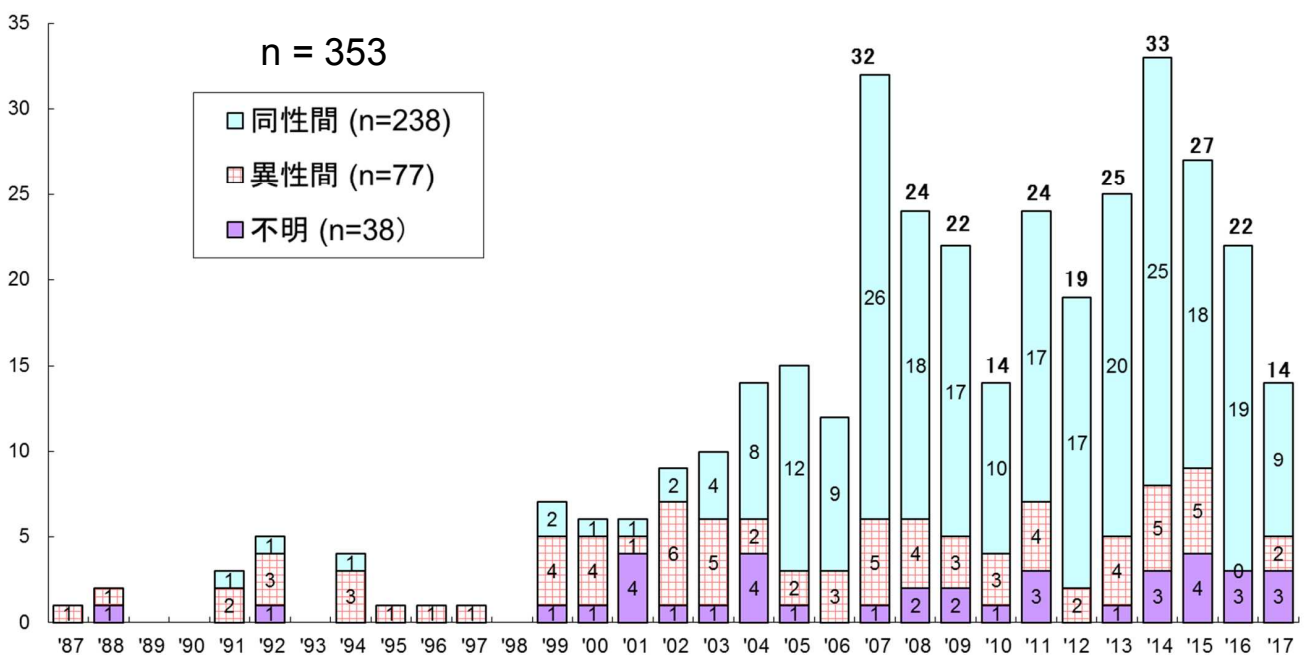
- 20～50代に幅広く分布している



※診断日に基づく集計（2017年は5月26日時点）

4. 感染経路別

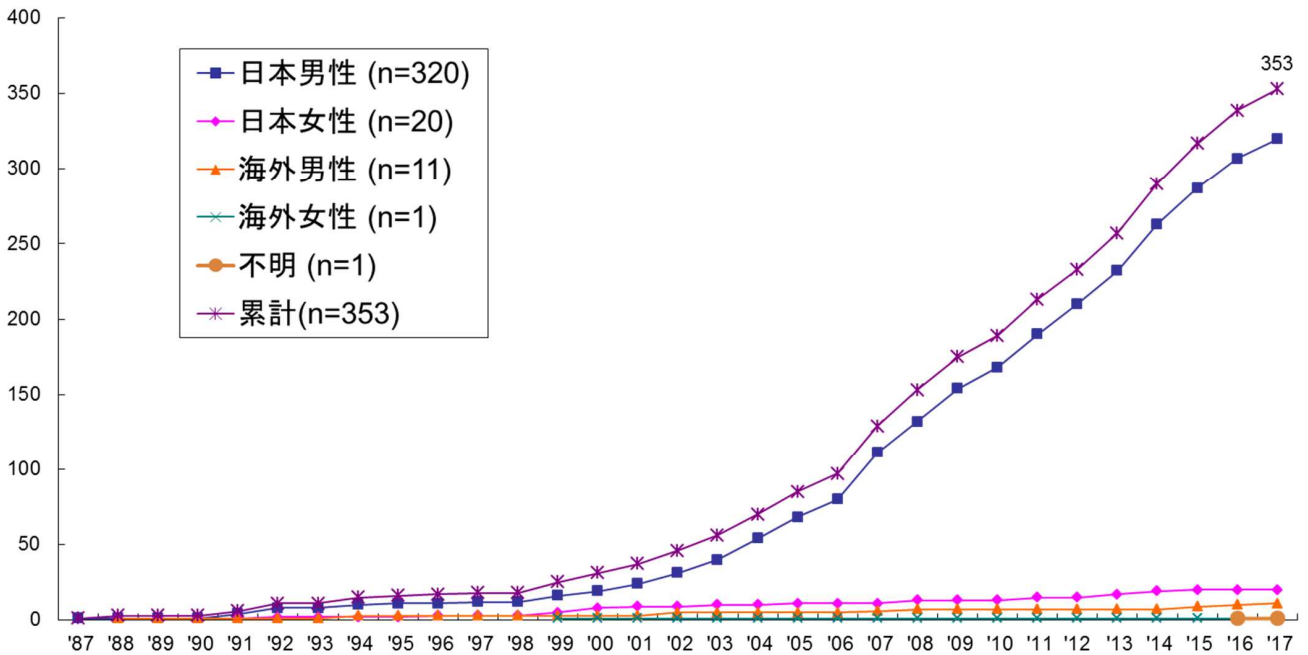
- 2005年以降、男性同性間性的接触が約6割～9割を占めている
- 異性間性的接触での感染も続いている



※診断日に基づく集計（2017年は5月26日時点）

5. 国籍別

- 日本人男性が増加している

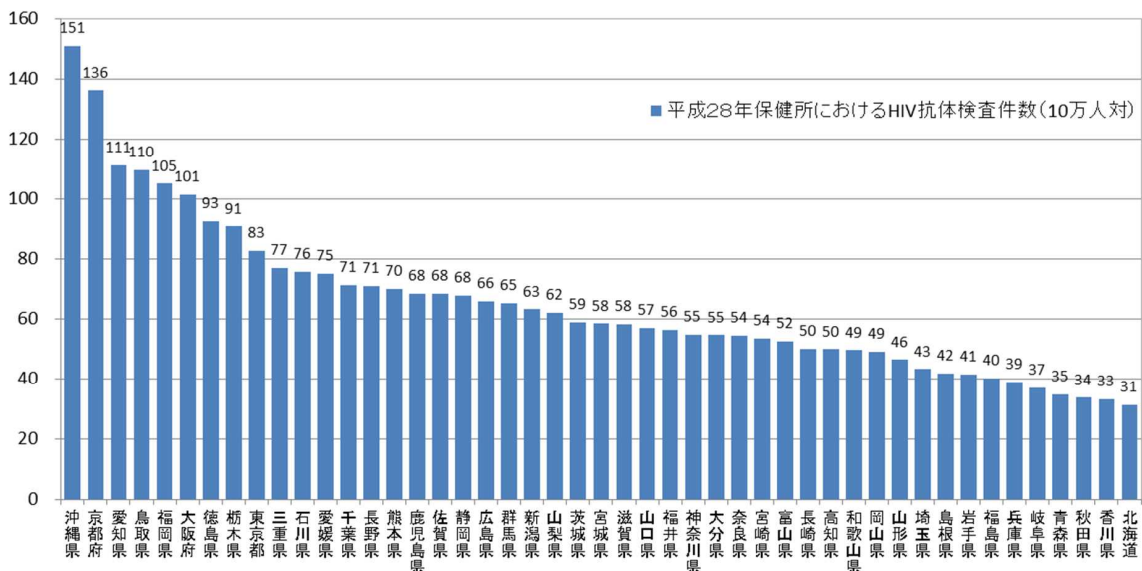


※診断日に基づく集計（2017年は5月26日時点）

6. 人口10万人あたりの都道府県別 HIV抗体検査件数(2016年)

- 沖縄県は人口比全国1位（人口10万人あたり151件）
- 県民の意識は他県に比べて高い

平成28年保健所におけるHIV抗体検査件数(10万人対)



7. 保健所HIV抗体検査スケジュール(拡充)

平成29年度HIV検査普及週間におけるHIV検査日程

検査・相談 機関名	問合先 電話番号	実施日	時間	即日・ 通常	夜間	予約	備考
北部保健所	0980-52-5219	6/1(木)~6/2(金)、 6/5(月)~6/7(水)	9:00~11:00、13:00~15:00 17:30~19:30(6/6(火)のみ) ※男性のクラミジア検査希望の場合午前10:30まで受付・夜間検査の場合は19:00まで受付	即日	○	必要	夜間は肝炎検査実施なし
中部保健所	098-938-9701	6/1(木)、6/6(火)	9:00~10:30、13:00~14:00 17:30~20:00(6/6(火)のみ)	即日	○	必要	夜間はHIV検査のみ実施
南部保健所	098-889-6591	6/1(木)、6/2(金)、 6/4(日)、6/6(火)	9:00~10:30、13:00~15:00	即日		必要	
宮古保健所	0980-73-5074	6/1(木)、6/6(火)、 6/7(水)	9:00~11:00、13:00~15:00	即日		必要	日程が変更になることもあり
八重山保健所	0980-82-4891	6/1(木)、6/2(金)、 6/5(月)~6/7(水)	9:00~11:30 13:00~16:00	即日		必要	
那覇市保健所	098-853-7971	6/1(木)、6/2(金)、 6/4(日)~6/7(水)	9:30~11:30、13:00~15:00 17:00~20:00(6/7(水)のみ)	即日 即日	○	必要	日曜日は16時まで

即日検査・・・問診、採血を実施し、1~2時間後に結果をお知らせします。

通常検査・・・問診、採血を実施し、後日結果をお知らせします。

8. 保健所HIV抗体検査スケジュール(通常)

平成29年度HIV検査日程(通常)

検査・相談 機関名	問合先 電話番号	実施日	時間	即日・ 通常	夜間	予約
北部保健所	0980-52-5219	火、木	9:00~11:00、13:00~15:00 ※男性のクラミジア検査希望の場合 午前中の受付は10:30まで	即日		必要
中部保健所	098-938-9701	火	9:00~10:30、13:00~14:00	即日		必要
南部保健所	098-889-6591	火、木	9:00~10:30、13:00~15:00	即日		必要
宮古保健所	0980-73-5074	火、木	9:00~11:00、13:00~15:00	即日		必要
八重山保健所	0980-82-4891	月、水、金 火、木	9:00~11:00、13:00~16:00 9:00~11:00、13:00~16:00	通常 即日		必要
那覇市保健所	098-853-7971	月、水、金 第1水曜日	9:30~11:30 13:00~15:00 17:00~20:00	即日 即日	○	必要

即日検査・・・問診、採血を実施し、1~2時間後に結果をお知らせします。

通常検査・・・問診、採血を実施し、後日結果をお知らせします。

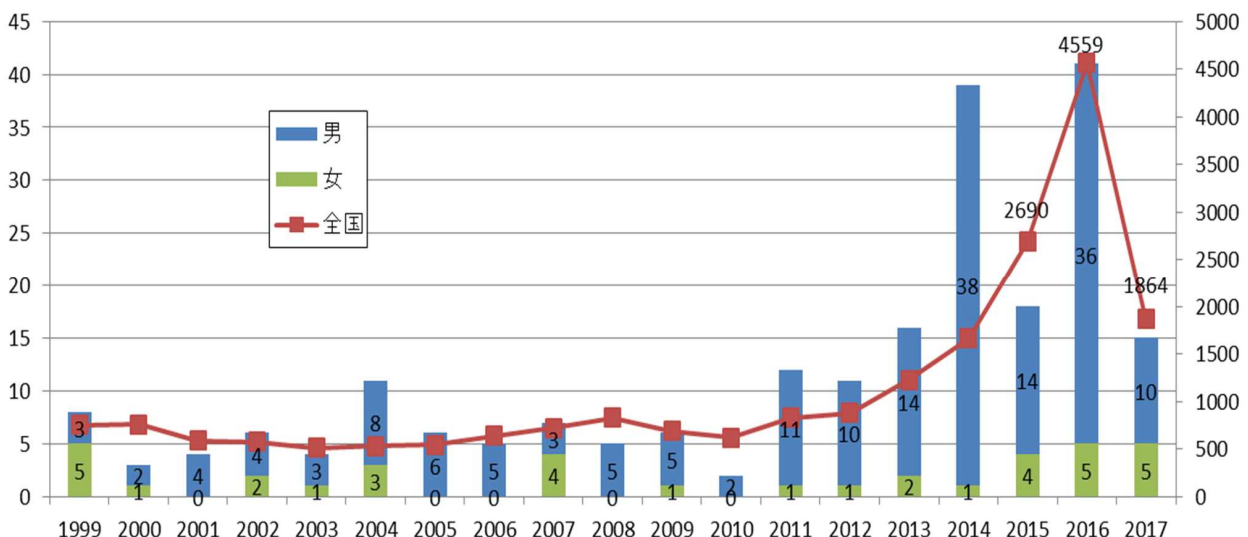
梅毒について

- 梅毒トレポネーマという細菌に感染することによっておこる病気です。
- 感染してから3～6週間ほどで、菌が侵入した局所に、痛みがほとんどないしこりや潰瘍ができたり、リンパ節が腫れますが、治療をしなくても数週間でなくなります。
- その後、4～10週間が経過すると、手のひらや足の裏を含む全身の皮膚や口腔内に発疹が出たり、脱毛、発熱や怠さなどの全身症状が出ます。これらも治療をしなくても数週間～数か月でなくなります。
- 上記の症状は再発することもあります。それでも治療せずに数年～数十年が経過すると、体にコブ状のしこりが出来たり、心臓や血管系の症状が出る他、認知症、手足のケイレン、体の麻痺などへ進行する場合があります。
- 妊娠中の女性が感染していると、体内の赤ちゃんへ感染し、流産や死産、出生後の赤ちゃんに難聴や歯の発育異常などの障害が出る原因となります。
- 感染経路は、①性行為、②血液を介しての感染(注射器具の共用など)③母子感染の3つです。
- 検査と治療
 - ・検査：保健所等で無料、匿名で受検できます。
 - ・治療：抗菌薬で治療ができます。但し、完治後も再感染します。
- 予防

梅毒への感染はほぼ性行為によるものです。コンドームの正しい使用は効果がありますが、完全ではないため、不特定多数との性行為を避けることが重要です。

梅毒の年別報告数

- 梅毒の報告数は、全国的に2010年以降増加しています。
- 2016年の報告数は、全国、県内とも感染症法による届出では、過去最高となっています。（1999年以前は、性病予防法）
- 2017年（5月26日時点）は、県内で男性10件、女性5件が報告されています。



※診断日に基づく集計（2017年は5月26日時点）